

多職種連携

多職種連携演習

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》 本家 寿洋 (リハビリテーション科学部) honke@hoku-iryo-u.ac.jp
巻 康弘 (看護福祉学部) maki@hoku-iryo-u.ac.jp 近藤 尚也 (看護福祉学部)
鈴木 和 (看護福祉学部) 鈴木 真人 (看護福祉学部) 宮地 普子 (看護福祉学部)
明野 伸次 (看護福祉学部) 内ヶ島伸也 (看護福祉学部) 若濱奈々子 (看護福祉学部)
用田 歩 (リハビリテーション科学部) 若松 千裕 (リハビリテーション科学部)
武田 涼子 (リハビリテーション科学部) 澤田 篤史 (リハビリテーション科学部)
佐藤 一成 (リハビリテーション科学部) 鎌田 樹寛 坂上 哲可 (リハビリテーション科学部)
鈴木 瑞恵 (リハビリテーション科学部) 大須田祐亮 (リハビリテーション科学部)
飯泉 智子 (リハビリテーション科学部) 柳田 早織 (リハビリテーション科学部)
齋藤 隆司 (リハビリテーション科学部)
(科目主担当、○学科主担当)

【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

【学修目標】

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

1. 対象者を中心とした視点が持てる。
2. 専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. グループ内で信頼関係を築ける。
4. それぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを省察し、考えや価値観を再構築できる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4. プログラミング言語を世界の共通言語として捉えるとともに、多様な文化と価値観を尊重し、データサイエンティストとして地域及び国際社会に貢献できる能力を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。

【実務経験】

巻 康弘(社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、認定医療社会福祉士)、近藤尚也(社会福祉士)、
鈴木 和(社会福祉士・精神保健福祉士)、鈴木真人(社会福祉士、精神保健福祉士、精神看護専門看護師)、
宮地普子(看護師)、内ヶ島伸也(看護師)、明野伸次(看護師)、若濱奈々子(看護師)、本家寿洋(作業療法士)、
若松千裕(言語聴覚士)、武田涼子(理学療法士)、用田 歩(理学療法士)、齋藤隆司(作業療法士)。

【実務経験を活かした教育内容】

社会福祉士、精神保健福祉士、看護師等の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している